

## 光洋精工株式会社創立80周年によせて

For Memories of the 80th Anniversary of  
Koyo Seiko Co. Foundation



矢部 寛\*  
Prof. Hiroshi YABE

トライボロジーの教科書等で常に書かれているように、人類は有史以前から摩擦や摩耗を利用し、あるいは摩擦・摩耗と戦ってきた。その手法には非常に大きな進歩があったが、基本的には現在もその姿は変わっていない。

「機械」とは「物体を組み合わせて相對運動をさせ、エネルギーによって所用の動作をさせる構造物」と定義されるのだそうだが、そのような定義はさしおいても、2つの要素が相對運動をするからには、必ず、それを支える軸受が必要であり、また必然的に摩擦や摩耗の問題を伴う。機械装置が高度になり精密になるほど、軸受部に課せられる要求は大きくなる。

日頃何気なく使っている数多くの製品もそのような技術の裏打ちがあって初めて成立している。トライボロジー課題の集大成と言われる自動車、ナノメータの世界の精密さがある初めて機能するOA機器やオーディオ装置、等々。これらの例をまつことなく、すぐれた機械は困難なトライボロジーの課題を一步ずつ克服した成果である。しかし、それはまた普通はあまり目に見えないものであることが多い。トライボロジー技術はあくまでも縁の下の力持ちなのである。

・・・と、大学に入ったばかりの新生に機械工学の総論的な授業の中で述べ、我々の身近かにあるハードディスクやビデオ装置を例にとって、軸受の恐ろしいまでに高度な精密技術を紹介する。学生達は、初めての世界に大変興味をもって聴いてくれる。機械要素学を講義する側からいうと、見かけの華やかさに惑わされることなく、普通は目にはあまり見えない、しかし、それを克服しなければ機械が成立しない、そのような学問や技術の重要さを肌で感じてほしいといつも思っている。軸受や潤滑に携わっておられる企業の技術者の方々も、そのような自負をもって、研究や開発を推し進めてこられたことであろう。

ところで、私がトライボロジー分野の一隅で研究を行うようになってから40年にもなるが、その

間、トライボロジーの世界を種々の側面から教えていただいた場の一つに関西潤滑懇談会がある。

関西潤滑懇談会は、昭和30年10月に、故佐々木外喜雄京都大学教授(当時)のご尽力によって発足したもので、以来40余年の歴史をもっている。この会は「軸受、歯車、その他潤滑全般に関する諸問題について研究を行い、潤滑技術の向上をはかる」ことを目的としたもので運営のモットーは、「門戸を広く、参加したい人は誰でも」と「学会発表ではなく啓蒙的なことを」である。名前のとおり、誰もがフランクに、そしてアットホームな雰囲気、「懇談」できる場として運営されてきており、今も当初の精神を引き継いで、活発な活動を続けている。

事務局としては、古くから光洋精工株式会社をはじめ数社交代でお願いしている。潤滑技術の関西での拠点として、会の運営を着実に引っ張ってきていただいている光洋精工株式会社をはじめとする事務局の多大の尽力があってはじめてこのような会の活動がもたらされるものであろう。

光洋精工株式会社が創立以来、たゆまない努力でもって、軸受という機械基礎産業の分野で、常に一步先を見据えた先端技術に取り組み、産業界に貢献してこられ、ここに80年の歴史を迎えられた。心からお慶び申し上げますとともに、関西潤滑懇談会をはじめ潤滑技術の進展の場をリードしてきていただいていることに厚く感謝している。

光洋精工株式会社では、「VALUE & TECHNOLOGY」、「価値ある技術をあなたのもとへ」をコーポレート・メッセージとして、ニーズに応える幅広い技術の開発、国際化・情報化への展開、企業の多角化と総合化、省資源・省エネルギーや地球環境保護等の切実な社会的要求への対応などにいち早く取り組み、世界をリードする企業としての確たるビジョンをもって、新しい世紀のステップを歩まれていると伺っている。

光洋精工株式会社のさらなる発展を願ってやまない。

\*京都大学大学院 工学研究科 精密工学専攻 教授 工学博士  
前関西潤滑懇談会理事長  
前日本トライボロジー学会副会長